

(1)

PAT-NO: JP410190796A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10190796 A

TITLE: HOUSING CASE FOR MOBILE TELEPHONE SET

PUBN-DATE: July 21, 1998 ✓

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HORIUCHI, HITOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

BIREDA HANBAI KK

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP08355906

APPL-DATE: December 25, 1996 ✓

INT-CL (IPC): H04M001/02, A45C011/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To reduce the unrequired margin part in manufacturing a housing case by providing an automatic opening function by using a flexible member and giving tension to the housing case.

SOLUTION: A case ground fabric 1 for covering the outer side face

of a mobile telephone set A is formed and an attaching part 2 for attaching the mobile telephone set A in a closed state is provided. Then, a speaker side housing part 3 and a microphone side housing part 4 are respectively formed in a bag shape by the means of making respective opening parts 3a and 4a face on an inner side and sticking or welding three sides or the like. Further, the

(1) case ground fabric hinge part 5 of the case ground fabric 1 for covering the outer side of the hinge means A3 of the mobile telephone set A is formed from flexible member of synthetic rubber or the like. Then, by the flexible member of the case ground fabric hinge part 5, the tension for pulling a speaker interior side part A1 and a microphone interior side part A2 to an outer side while the mobile telephone set A is in the closed state is supplied. Thus, just by detaching the attaching part 2, it is automatically opened.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-190796

(43) 公開日 平成10年(1998)7月21日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I
H 0 4 M 1/02
A 4 5 C 11/00

C
E

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-355906

(22) 出願日 平成8年(1996)12月25日

(7) 出版人 595030251

ピレダ販売株式会社

神奈川県相模原市大野台3丁目25番29号

(72) 発明者 堀内 仁

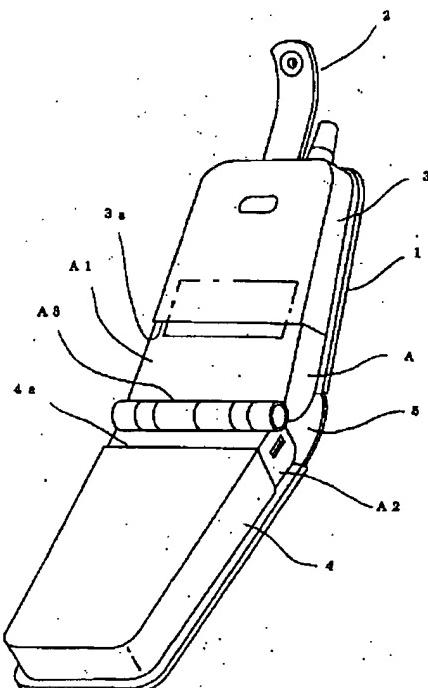
神奈川県相模原市大野台3-25-29 ピレ
ダ販売株式会社内

(54) 【発明の名称】 移動電話器の収納ケース

(57) 【要約】

【目的】収納ケースに伸縮性部材を用いてテンションを与えたことによって、携帯電話器等の移動電話器のスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位の自動オープン機能を備えると共に、収納ケースの製造時の不要の余地部の削減を図った移動電話器の収納ケースを提供する。

【構成】移動電話器の外側面を覆うケース基布を形成し、ケース基布の内側の両側にスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位との内側面を覆うスピーカ側収納部とマイクロホン側収納部とを袋状に且つ開口部を対峙させて形成し、移動電話器を閉状態で係着させる係着部を設け、ヒンジ手段の外側を覆うケース基布のケース基布ヒンジ部を伸縮性部材で形成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】スピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とがヒンジ手段を介装して開閉されるタイプの携帯電話器等の移動電話器を収納するケースであって、前記移動電話器の外側面を覆うケース基布を形成し、該ケース基布の内側の両側にスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位との少なくとも内側面を覆うスピーカ側収納部とマイクロホン側収納部とを袋状に且つ夫々の開口部を対峙させて形成すると共に、前記移動電話器を閉状態で係着させる係着部を夫々設け、前記ヒンジ手段の外側を覆うケース基布のケース基布ヒンジ部を伸縮性部材で形成し、該ケース基布ヒンジ部へ移動電話器が閉状態でスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位を外側に引っ張るテンションを与えてること特徴とする移動電話器の収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は携帯電話器等の移動電話器の携帯用の収納ケースに関するものであり、詳細には、ヒンジ手段を介装してスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とが開閉されるタイプの移動電話器の収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来技術】従来、この種のスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とがヒンジ手段を介装して開閉されるタイプの携帯電話器等の移動電話器を携帯するために収納するケースは本革、人工皮革、合成繊維、合成樹脂等で形成されており、使用時には収納ケースに取着されたスナップ等の係着部を外し、ヒンジ手段によってスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とをくの字状の開状態として使用している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】然し乍ら、使用時、スピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とは、閉状態で確りと閉ざされており、会話が可能な字状の開状態とするためには、両手を使って開かなければならなかつた。

【0004】又、従来の収納ケースには伸縮性が無く、移動電話器を収納した閉状態又は開状態において、移動電話器と収納ケースとの間に隙間ができブカブカ感は否めないものであった。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は前記の事由に鑑みて、移動電話器の外側面を覆うケース基布を形成し、ケース基布の内側の両側にスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位との内側面を覆うスピーカ側収納部とマイクロホン側収納部とを袋状に且つ開口部を対峙させて形成すると共に、移動電話器を閉状態で係着させる係着部を設け、ヒンジ手段の外側を覆うケース基布のケース基布ヒンジ部を伸縮性部材で形成したことにより解消

するものである。

【0006】従って、本発明の目的は、収納ケースに伸縮性部材を用いてテンションを与えたことによって、携帯電話器等の移動電話器のスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位の自動オープン機能を備えると共に、収納ケースの製造時の不要の余地部の削減を図った移動電話器の収納ケースを提供するものである。

【0007】

【作用】本発明の移動電話器の収納ケースは、係着部を外すと収納ケースのケース基布ヒンジ部の伸縮性部材のテンションによって、移動電話器のスピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位との外側が引っ張られ、自動的にオープンするものであり、更に、移動電話器の開状態においてもヒンジ手段の周りの収納ケースとの間に隙間が発生すること無く収納されるものである。

【0008】

【実施例】本発明に係る移動電話器の収納ケースの実施例を図面によって説明する。

【0009】図1は本発明の移動電話器の収納ケースの実施例の使用状態の斜視図であり、図2は本発明の移動電話器の収納ケースの実施例の平面図であり、図3は本発明の移動電話器の収納ケースの次実施例の平面図である。

【0010】本発明は携帯電話器等の移動電話器Aの携帯用の収納ケースに関するものであり、詳細には、スピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2とがヒンジ手段A3を介装して開閉されるタイプの携帯電話器等の移動電話器Aを収納するケースに関するものであり、前記移動電話器Aの外側面を覆うケース基布1を形成し、該ケース基布1の内側の両側にスピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2との少なくとも内側面を覆うスピーカ側収納部3とマイクロホン側収納部4とを袋状に且つ夫々の開口部3a、4aを対峙させて形成すると共に、前記移動電話器Aを閉状態で係着させる係着部2を設け、前記ヒンジ手段A3の外側を覆うケース基布1のケース基布ヒンジ部5を伸縮性部材で形成し、該ケース基布ヒンジ部5へ移動電話器Aが閉状態でスピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2を外側に引っ張るテンションを与えているものである。

【0011】即ち、本発明の移動電話器Aの収納ケースは、図1に図示する如く、携帯電話器等の移動電話器Aを収納する収納ケースに関するものであるが、特に、移動電話器Aの中でヒンジ手段A3が介装されスピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2とを閉状態ではコンパクトに2つ折りに折曲され、使用中は適宜な角度で側面くの字状の開状態と成るタイプの移動電話器Aに用いるものである。

【0012】周知のように、この種のヒンジ手段A3が介装された携帯電話器等の移動電話器Aは折曲される一方のスピーカ内装側部位A1の内側面には音声を発声す

るスピーカと、各種の情報を表示するディスプレー表示部等が設けられ、他方のマイクロホン内装側部位A2の内側面にはマイクロホンと、各種の操作をする多数の押し釦から成る操作釦等が設けられているものであり、携帯するときには移動電話器Aを折り曲げた閉状態で収納ケースに収納しているものである。

【0013】又、ヒンジ手段A3が介装されたタイプの移動電話器Aの中には、各種の操作をする操作釦をスピーカ内装側部位A1の内側面に配して、マイクロホン内装側部位A2は極薄い板状体としているものもある。

【0014】本発明の移動電話器Aの収納ケースはこれ等のヒンジ手段A3が介装された移動電話器Aに適応するもので、移動電話器Aの外側面、つまり、スピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2とヒンジ手段A3との夫々の外側面を覆うケース基布1は移動電話器Aの外側面の外周に沿って若干巾を膨出させて形成しているものである。

【0015】そして、移動電話器Aを閉状態で係着させる係着部2を設けているものであり、該係着部2はケース基布1から延設した舌状の係着部材2aの先端辺に一方のスナップ2bを固定し、他方のスナップ2cは後述するケース基布ヒンジ部5を介して固定しているものであり、つまり、移動電話器Aが閉状態でスナップ2b、2c同士を合着できる位置に設けているものであるが、係着部としてはスナップ2b、2cの他に面ファスナ、マグネット等でも構わないものであり、又、係着部2を設ける位置はケース基布1でも、スピーカ内装側部位A1でも、マイクロホン内装側部位A2でも構わないものである。

【0016】次に、移動電話器Aのスピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2との少なくとも内側面を覆うスピーカ側収納部3とマイクロホン側収納部4とを形成するものであり、移動電話器Aの側面はケース基布1を延設させて覆っても、スピーカ側収納部3及びマイクロホン側収納部4で覆っても構わないものであるが、スピーカ側収納部3とマイクロホン側収納部4とは夫々の開口部3a、4aを内側に対峙させて三方を貼着、又は、溶着等の手段によって袋状に夫々形成したものである。

【0017】更に、移動電話器Aのヒンジ手段A3の外側を覆うケース基布1のケース基布ヒンジ部5を合成ゴム等の伸縮性部材で形成しているものであり、該基布ヒンジ部5の伸縮性部材によって、移動電話器Aが閉状態でスピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2を外側に引っ張るテンションを与えているものである。

【0018】そして、移動電話器Aに設けられているディスプレー表示部、操作釦、マイクロホン、スピーカー、アンテナ、吊り下紐等の部位はケース基布1、スピーカ側収納部3及びマイクロホン側収納部4を透明部材

で形成しても、開口させて露出又は貫通させても、單に露出したままでも任意なものである。

【0019】加えて、図3に図示した次実施例では、各種の操作をする操作釦をスピーカ内装側部位A1に配し、ヒンジ手段A1を介して極薄い板状体のマイクロホン内装側部位A2を備えている移動電話器Aに好適なものであり、ケース基布1はスピーカ内装側部位A1の側面まで延設して断面コ字状としているものであり、スピーカ側収納部3はケース基布1の三方に立ち上げた上辺10へヒンジ手段A3側に開口部3aを開口させ貼着、溶着、又は、縫着等の手段によって袋状に形成したものであり、マイクロホン側収納部4は前述の実施例と同様に開口部4aを対峙させた袋状に形成したものである。

【0020】そして、スピーカ側収納部3とマイクロホン側収納部4との間の移動電話器Aのヒンジ手段A3の外側を覆うケース基布1のケース基布ヒンジ部5を伸縮性部材で形成しているものであり、ケース基布ヒンジ部5の伸縮によって、スピーカ内装側部位A1とマイクロホン内装側部位A2を外側に引っ張るテンションを与えているものである。

【0021】

【発明の効果】本発明は前述のように構成したことによって、収納ケースへの携帯電話器等の移動電話器の挿脱も容易にでき、又、送受信時には係着部を外すだけで、ケース基布ヒンジ部の伸縮性部材のテンションによって、スピーカ内装側部位とマイクロホン内装側部位とがヒンジ手段を介して外側に引っ張られ自動オープンするものであり、片手で充分に操作可能となり、又、ケース基布ヒンジ部の伸縮性部材で形成しているため収納ケースと移動電話器との間に開状態においても、閉状態においても隙間が皆無と成り、ブカブカ感が無く、ケース基布の余剰部部をなくするもので経済的であり実用性も高い発明である。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は本発明の移動電話器の収納ケースの実施例の使用状態の斜視図である。

【図2】図2は本発明の移動電話器の収納ケースの実施例の平面図である。

【図3】図3は本発明の移動電話器の収納ケースの次実施例の平面図である。

【符号の説明】

A	移動電話器
A1	スピーカ内装側部位
A2	マイクロホン内装側部位
A3	ヒンジ手段
1	ケース基布
2	係着部
3	スピーカ側収納部
3a	開口部
4	マイクロホン側収納部

(4)

特開平10-190796

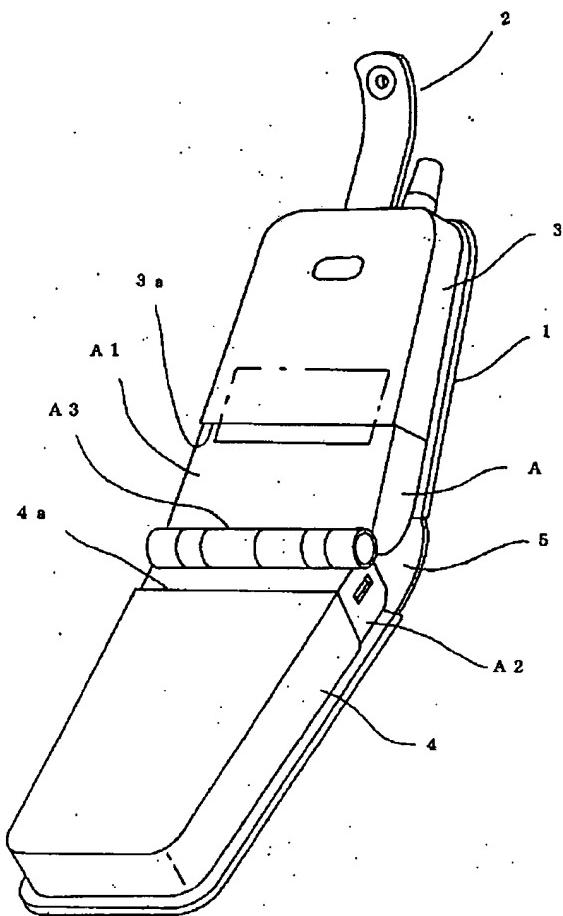
5

6

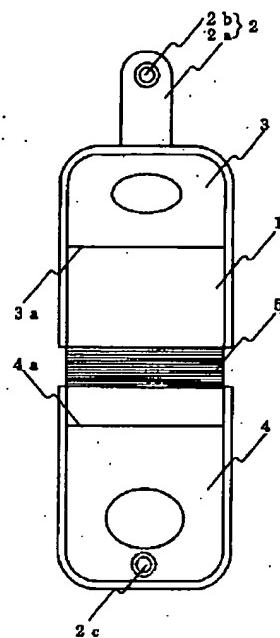
4a 開口部

5 ケース基布ヒンジ部

【図1】



【図2】



【図3】

